



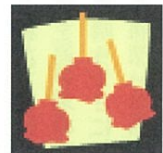
— 第67号 —

〒214-8565  
川崎市多摩区西生田1-1-1  
日本女子大学教育学科の会  
電話 044 (952) 6870 (代)  
FAX 044 (952) 6889  
ホームページ  
http://jwu-gakuen.net/  
メールアドレス  
info@jwu-gakuen.net

### 第二十五回 日女祭

十月十七日(日) 十八日(日)  
午前十時〜午後五時

\*入場は両日共に  
午後三時三十分まで  
(交通のご案内は8ページに)



## ホームカミングデイ・シンポジウムのお知らせ

会長 岩木秀夫

日女祭にあわせ、ホームカミングデイを開催します。昨年は葦65号に紹介しましたように、元教育学科教授とともに人間社会学部長をお勤めになられた牧野暢男先生と片桐芳雄先生をお招きし、人間社会学部の発足から平成三十三年のキャンパス統合決定に至るまでの経過を学び、教育学科のアイデンティティをめぐる田部学科長を交えての熱心な議論がなされました。今年も、昨年の議論の熱が冷めやらぬ田部学科長が、私学における教育養成のあり方をめぐって他大の二人の先生をお招きしての講演会を学術交流研究事業として企画され、ホームカミングデイで教育学科の会及び教職教育開発センターとの共催事業として実施することになりました。事業の概要と趣旨について、田部俊充学科長のお作りになった企画書を以下に転載いたします。教員養成制度の雲行きが厳しさを増す折、私学の教員養成が目指すべき方向を考えるのに大きなヒントが得られそうな企画と拝察します。皆様、どうぞ奮ってご参加下さい。

日時 平成二十七年十月十七日(土)  
午後一時〜午後四時

場所 成瀬講堂南ホール(西生田キャンパス)

テーマ 授業を創る力をどう育てるか  
学校や地域と連携した特色ある教員養成のありかた

講演者 多田孝志(目白大学教授・寺本 潔(玉川大学教授)

コーディネーター 田部俊充(教育学科)・瀬尾美紀子(教育学科)

シンポジスト 山澤和子(教育学科)

田部俊充(教育学科)・川崎市教育委員会関係者

東京都教育委員会関係者

卒業生2名・在学生2名



### 申し込み

準備の都合上、なるべく同封のハガキで十月九日(金)までにお申し込みください。(申し込みなしでの当日参加も歓迎です。)

### 企画の趣旨

教育学の範疇は学校教育にとどまらず、その必要性は増しています。一方で、教員養成を取り巻く状況は変化しており、教員には教科等の専門知識や実践的指導力といった資質・能力が強く問われ、教員養成を担う大学はそれことを確実に保証することが求められています。教育学科は教育学の多様な魅力を追求めつつ、教員養成の実績を残してきましたが、今後私学の教員養成は、これからの教員養成をいかに構築していくか、その方向性が問われています。そのキーワードは「学校や地域との連携」「個性を活かす」であると考えます。今回講演をお願いするのは目白大学人間学部長・児童教育学科長の多田孝志先生、玉川大学前教育学部長の寺本潔先生、お二人とも学生のみならず学校現場の先生方の支持は絶大で、積極的な教育養成改革を行っている目白大学、玉川大学教育学部の取り組み、そして、両先生の授業実践研究の最近の共通項と思われる「伝えあう力が育つ授業を創る」という点に焦点をあてて、講演をしていただきます。

それを受けて後半はシンポジストをお迎えし、教育学科の教員、学生の皆さんとパネルディスカッションを行います。学校や地域と連携しながら、教育学科の特色を十分に活かしていくような教員養成の方向性について考えてみたいと思います。お楽しみに。

### 提言

## トランス・サイエンスの時代と生命倫理教育

教育学科助教 加藤美由紀

様々な科学技術の発展によって、私たちの生活は多大な恩恵を受けている。科学技術が社会に受け入れられるかどうかは、「科学によって問うことはできるが、科学によって答えることのできない」トランス・サイエンスの問題として、一九七〇年代に核物理学者であるワインバーグが定式化している。こうしたトランス・サイエンスの問題は、バイオテクノロジーや医療技術にも言えることであり、遺伝子組み換え食品や臓器移植、iPS細胞による網膜の再生などの医療技術においても、その実用化の際に科学によって答えることのできない要因も論じられるであろう。例えば、企業による医療技術の開発に対する資本の導入がどの程度かによって、私たちの生活への普及度が変わってくる場合もあるからである。

バイオテクノロジーなどの科学によって説明できる現象を、科学技術の成果として私たちの生活に適用する場合、その成果だけに注目するのではなく、それまでは私たちがどう抗つてもなすがままにしか出来なかった自他の生命を、それらの科学技術によって操作できるようになったということを意識しなければならぬように思う。

「いのち」をどのようなものとして理解し、どのような価値を与えるべきかについては生命倫理の問題であるが、学校教育においては生命倫理教育の内容は様々である。少し前の調査であるが一九九三年の国際生命倫理調査では、生命倫理について、日本の教師は命の尊厳に関するものとして見る傾向があり、オーストラリアやニュージーランドの教師は、生徒が直面する近代科学技術がもたらす問題に対する実践的な対応とする傾向があるという結果であり、国によって生命倫理教育のあり方が異なる。命の尊厳や生命観をどう捉えていくかという点を前提として、児童や生徒が直面するであろう科学技術の生活への適用に対する実践的な対応についても、日本の学校教育において早急に確立されることが望まれる。

# 平成二十七年 教育学科の会 大会報告

第五十四回 教育学科の会大会が、五月二十三日(土) 西生田キャンパスにおいて行われました。

## 〈第一部・総会〉

総会は、会長挨拶から始められ、議長の選出、平成二十六年度事業報告、決算報告が行われました。平成二十六年度の主な事業報告として、第五十三回大会が行われ、総会の後四名の講師による「学縁の集い」が開催され、卒業生を囲み学生の熱心な質疑が行われた事、十月十八日(土)にホームカミングデーが開催され、牧野暢男先生、片桐芳雄先生により「人間社会学部と教育学科」二人の元人間社会学部長が占う目白移転後の将来」の講演があり、今後の教育学科のあり方について深く考えさせられた事、十一月二十九日(土)に懇話会が百年館において開催され、三上満氏より「私のお歩んできた道」元祖金八先生が語る、教育のこと・宮沢賢治のこと」の講演があり、宮沢賢治と女子大の関係の視点から論議がなされた事、三月には紀要「人間研究」第五十一号が発行され、会報「葦」第六十五号が九月に、第六十六号が三月に発行された事等が報告されました。

その後、役員の選出、平成二十七年事業計画、それに伴う予算案と議事が可決されました。

教育学科の会奨励賞は、神原裕子氏が受賞されました。

## 〈第二部・第19回 学縁の集い〉

今回は卒業生三名の方が講演してくださいました。それぞれの職場で活躍されている先輩方から、就職に向けてのお話や学生時代の過ごし方などのお話を伺い、非常に有意義なひと時を過ごすことができました。また、今回は全体での講演後、それぞれの講演者の方を中心としたグループトークを行い、さらに詳しくお話を伺いすることができました。

### ☆萩原 ひかる氏 (63回生)

萩原さんは教員三年目で東京都の公立幼稚園に勤められています。萩原さんはご自身が小学生の時から幼稚園の先生になりたいと思っていましたが、他のことについても学びたいと考え、家政学部家政経済学科に入学されました。しかし、幼い頃の夢を追い求めようと決心し、大学一年の後期に教育学科へ転科されたそうです。

幼い頃の夢を叶えた萩原さんは現在の仕事について、「毎日子どもの成長を学べるのが一番のやりがいであり、メリハリのある毎日が充実した生活になっている」と語ってくださいました。日々の生活の中で、子どもたちから学ぶことも多く、毎日が発見と驚きに溢れているそうです。また、教師の役目として最も大切なことの一つは「その子の持っている力を引き出すこと」ということを強く仰っていました。そして、最後に「今しか

できないことをたくさん挑戦して、それを全力で楽しんで！」とアドバイスしてくださいました。教員を目指す人にとって、職種を問わず「教員とはどのような存在か」ということを考えることができるとても興味深いお話でした。

### ☆高山 恵梨氏 (59回生)

高山さんは一般企業に就職したのちに転職をし、現在はNPO法人で地域おこし協力隊として活躍されています。学生時代に受講したある授業で自身の価値観が広がり、NPOへの興味が湧いてきたそうです。新卒時の就活では教師という立場ではないところから教育へのアプローチをしたいと思い、「やって後悔するほうがよい」と考え、一般企業に就職し、営業事務や企画制作等の仕事に尽力していました。しかし、日々の仕事をこなしていくうちに「自分のやりたいことは何だろう」と考え、一念発起をし、社内公募制度を活用するなどをして、今年の四月から元々興味のあったNPO法人への道へ進んでいかれました。

高山さん自身は、「まだ夢の途中」と考え、さらなるやりがいを追い求めているそうです。そんな高山さんは「自分の好きなこと、大切にしたいことをずっと大切にし続けることでいつか必ず道は拓けてくる」と私たちに強く訴えてくださいました。夢を追い求めていくことのかっこよさや素晴らしさに気付くことができる、大変興味深いお話でした。

### ☆寺坂 史織氏 (59回生)

寺坂さんは在学時からNBAバレエ

団に所属されていて、現在は後進の指導を務めながら様々な舞台上でソリストとして活躍されているバレリーナです。幼少期からバレエ教室に通っており、学生時代も二年生半ばからオーディションに合格したバレエ団に入団し、バレエのためにご自身を捧げていました。しかし、バレエに毎日時間等を費やしていくうちに、寺坂さんは自身と「普通の大学生」とのギャップに違和感を感じ、一時は大学を休学しようか、という考えにもなつたそうです。しかし、教授等の話を聞き、提携大学の授業で単位を取得できる「f i c a m p u s」を活用するなどをし、無事卒業されました。卒業後は本格的にバレエを学ぼうとニューヨークの大学院を受験し、結果的には不合格となつてしまったのですが異国の地で挑んだことはとても良い経験であったと、とても明るい表情で語ってくださいました。

素敵な夢を追い求めていった寺坂さんは、「今、やりたいことがあるなら、今やるべき。無理だと思っても取り組めば、必ず救いの手は伸びてくる」と力強くアドバイスしてくださいました。普段、



左から萩原さん、寺坂さん、高山さん

なかなか聞くことができないお話に非常に刺激を受けることができました。

感想

それぞれ、全く異なる職種の方のお話を聞くことができ、非常に勉強になるとともに、貴重な機会であったと感じました。今回、講演してくださった三名の方は、ご自身の夢を追い求めて現在の道に進んでいらっしやったので、これから進路を決めていく学生にとつてもお話を聞いてお話をありがとうございました。たくさんのご参加ありがとうございました。

【学生委員3年 田中 愛】

★参加学生の声★

★幼稚園教諭の一日の生活や、実働面での具体的なことを聞くことができ、1年生にとつても3年生にとつても刺激的な会になりました。★ゲストスピーカーの方々のそれぞれのお話を聞いて将来の可能性は無数にあると感じました。★自分が将来の事を考える時期になったところで様々な場所で活躍されているOGの方々の話を聞いて、とても参考になりました。★グループワークによって、自分の人生を見つめる機会となりました。

☆主催者 学生委員の声☆

☆自分で交渉して講師の方に来ていたのは初めての経験でした。非常に緊張しましたし、大変なこともありまし

たが、その分大きな達成感を味わいました。これだけ達成感を味わう機会は最近なかったのもとても貴重な経験でした。

新任の先生紹介

今年、着任された齋藤先生・東原先生・野田先生にインタビューをしましたのでご紹介します。

齋藤慶子先生



◆簡単に経歴、職歴、専門科目などのプロフィールをお願いします。

東京都出身。筑波大学（人文学類・日本史）、筑波大学大学院（教科教育専攻）を経て、女子教育を学ぶためにお茶の水女子大学大学院に進学しました。二〇一一年三月に博士号（社会科学）を取得後、二〇一一年四月からお茶の水女子大学リサーチフェロー、二〇一二年四月から二〇一五年三月まで川村学園女子大学教育学部児童教育学科准教授として研究・教育活動を続け、今年の四月から

日本女子大学に着任しました。

専門は女子教育・家庭教育ですが、とくに女性教員の仕事と家庭の両立問題を歴史的に捉えることを中心テーマとして研究を進めています。二〇一四年六月に六花出版から『女教員』と『母性』―近代日本における「職業」と家庭の両立問題―を出版しました。

◆日本女子大学の学生の印象はいかがですか。

まじめで、指示されたことをきちんと理解し遂行できる能力の高さを感じています。

◆先生の趣味を教えてください。

茶道・・・と言いたところですが、学生時代、茶道部の練習中に足を骨折したという経歴があります。

◆学生時代のアルバイトの話を聞かせてください。

学生時代のアルバイトは、家庭教師、塾講師、国や地方自治体の役所のお仕事をコンスタントにしながら、時折、ポリシヨイサーカスの日本公演でグッズを販売していました。

「教える」という点では、塾講師や家庭教師の経験では、子どもの目線に合わせることの大切さを学ぶことができました。霞ヶ関のある役所では、「働き方」に関する政策をつくる部署でアルバイトをしていました。現在のWLB（ワーク・ライフ・バランス）や両立問題に関する資料を資料作成のお手伝いしている間に垣間見ていた経験は、いま行っている女性教員の両立問題を歴史的に捉える研究の視点を養うことに生きていると思っています。

◆学生に今後どのような大学生活を送っても

raitaiですか。

勉強もアルバイトも、そして人間関係も、少し不器用でも一つ一つ誠実に向き合って取り組む大学生活を送ってください。その糧のなかに、将来にきつと役に立つ何かがあるはずですよ。

【学生委員 3年 塚越 綾香】

東原信行先生

東原先生は、平成25年から2年間客員教授として従事され、今年度より特任教授になりました。

教育学科で、国語科概論・国語科教材研究・教職基礎論・現代教育論(学級論)を担当されています。

◆日本女子大学の学生の印象はどうですか？

何でも一生懸命取り組む学生さんが多いのと、みんな仲がいいと思います。

◆東原先生はどんな学生でしたか？

考古学を専攻していたので、一年のうちほとんどの日数は発掘調査をしていました。日本中に行きましたが、関東近郊が多く多摩や横浜も調査しました。調査だけでなく警備員やデパートの展示替えの夜間アルバイトなど好きなことも沢山



していました。  
◆趣味はやはり考古学研究ですか？

歴史はもちろん好きですが、旅行も好きです。神社や遺跡を見て回ることが好きです。現在は年に2校程、小学生に実物の土器や石器を使って授業をすることもあります。

◆考古学の研究と同時に小学校の先生になる勉強をされていたのですか？

それがですね、最初は考古学の方に進もうかと考えていたんです。でも教育実習先の中学校で社会科の授業をやったら楽しくて社会科の先生になろうと思えました。だけど採用試験に落ちてしまっていて5年間待つてくれたら採用すると言われました。その間小学校に臨時採用で勤めながら小学校の先生の免許が取れる制度があると誘ってもらい始めました。それから免許を取り小学校で先生をしていたら面白くなってしまつて(笑)。高校へのお誘いを断つてしまいました。  
また小学校の先生をやりながら市の文化財調査員として10年間担当していたこともあります。

◆東原先生が教師になるまでは素敵な出会いの連続だったんですね。最後に学生にアドバイスをお願いします。

世の中が動き、目まぐるしく変化している社会に対して興味を持ち、世の中に対する自分の考えを持ってほしいと思います。

【学生委員 3年 林 麗未】



### 野田不二夫先生

野田先生は以前まで小学校教諭を務められ、数学科をご専門とされています。教職基礎論、算数科概論を担当されています。

◆日本女子大学の学生の印象はどうですか？

自分が学生の頃の印象と比べると、非常に真面目だなというのが第一印象です。女の子だから最初は教えるのが難しいのかと思つたのですが、小学高学年と一緒に、素直で、反抗せずしっかり聞いてくれるんだなあと思つました(笑)

◆野田先生は、どんな学生でしたか？

大学一、二年生の頃はヤンチャで、遊んでました(笑)

サークルでは日本全国を歩くサークルに入つていて、山や岩を登るのではなく、主に平地を歩きました。夜九時頃から朝九時頃まで、寝ないで十二時間歩いて山手線一周したり、和歌山県を一周したりと、いろんな所を歩いていました。インターシップや学校ボランティアは僕所には無かつたんですが、三年次に三週間付属の小学校、四年次に四週間一般の小学校に教育実習に行つて、「これは真



剣に勉強しなくてはいけないなあ」と、三、四年から変わりました。だからずつとちゃんぽらんに遊んでいた訳ではないです(笑)

◆中学校、高校の数学科の先生ではなく小学校の先生になろうとは思つたのは何故でしょうか。

自分の科は小学校教員養成過程で、それぞれ科目ごとに分かれていて、小学校過程の数学科に入りました。小学校の先生になりたい気持ちの方が強かつたし、副免許として中学校、高校の数学科の免許も取れたので、小学校を主免許として、中学校・高校の数学科を副免許に取りました。

◆先生の趣味を教えてください。

映画鑑賞が趣味です。大学を受けるときに映画監督になろうかとも思うくらいコンスタントに映画が好きで、今も見ています。洋画・邦画・ミュージカルなんでも大好きですが、あまり時間がなくてきはドラマを見ます。録画してDVDに取つてCMを飛ばして見ます。今のシーズンでは「Dr.倫太郎」が好きです。

◆では、最後に学生に大学生活のアドバイスをお願いします。

皆さんが授業中とても真面目に聞いた研究しているのとても良い事だと思つています。インターシップやボランティア、教育実習に行つた際にはたくさん勉強してほしいし、私は授業で実践的なことも教えているので、現場での具体的なことでも、教員採用試験の論文の書き方などでもなんでも答えられるので、いつでも気軽に質問に来てください。

【学生委員 3年 永杉 世莉亜】

### 奨励賞を受賞して

看護教員としての再スタート

東京有明医療大学 看護学部看護学科 教授 神原 裕子



このたびは「教育学科の会 奨励賞」をいただき、誠にありがとうございます。思いがけず、このような賞をいただくことができましたが、教育学科の会の皆様の温かなご支援を心に留め、看護教員として再び教育、研究に尽力して参りたいと考えております。改めて、心から感謝申し上げます。

私が日本女子大学の博士課程後期に入学したのは、ちょうど4年前の東日本大震災から間もない頃でした。日本の社会全体が震災のショックからなかなか抜け出せず、自分自身も何か落ち着かない気分でも過ごしていたことを思い出します。研究のために一旦教育現場を離れたものの、見通しをもてない不安な日々を過ごしていました。

しかし、幸いにも澤本和子教授に温かく迎えていただき、少しずつ自分のペー



スをつかむことができました。本年、3月にご退官になった澤本教授のご指導は、教育、研究の厳しさと向き合い方について深く考えさせられるものでした。看護教員としての自分自身のあり方をふり返りながら、実践能力を高める指導を追究する機会になりました。また、教育学科の先生方には様々な場面で多くのご助言、ご示唆をいただきました。研究の進め方に迷いが生じている時の相談にも耳を傾けてくださいました。様々なご指導のお蔭で無事論文提出に至り、博士の学位をいただくことができました。今後は、看護教育の現場から様々な課題にチャレンジしていきたいと考えております。特に、博士論文で取り組んだ「新人看護師のリフレクション」に関する研究は、さらに発展させていくつもりです。澤本和子教授の温かさとの出会いと教育学科での経験を忘れず、未来の看護を担う「人づくり」に努力を重ねて参ります。

## 先輩にインタビュー



今回は、二〇一二年三月に教育学科を卒業されました、62回生の唐津梓さんに、メールで取材させていただきました。



唐津さんは、在学時代に藤田先生のゼミに所属されていました。卒業論文では、小学校高学年を対象に受験と児童の発達の関係性について書かれておられます。

### ★お仕事の内容について教えてください。

アウトソーシングサービスを提供している会社で新規法人営業をしています。営業なので、お客様先への訪問が主となり、その訪問資料、提案資料を作成します。お客様の課題を解決するために、どんなサービスを提供できるかを考えて改善策を提案するお仕事をしています。

### ★お仕事をされていてやりがいを感じる時はどんな時ですか？

お客様の課題に対して少しでもお手伝

いができることがやりがいです。「困ったことがあるので、ちょっと来てくれる？」と言ってもらえると頼ってもらえるんだなと、とても嬉しく思います。また、提案している内容も金額も大きなことが多く、スケールの大きさも刺激になることがあります。

### ★就職活動をしていて大変だったことはありますか？

教育学科でしたので、教員になるか最後まで迷いました。なかなか「どんな風に働いていきたいか」ということを突き詰められず、悩みながらも、どちらも並行して取り組んでいたのが、時間や体力的にも大変だった記憶があります。

### ★学生時代の思い出に残っていることがあります。ありましたら教えてください。

青少年更生支援の学生団体に入会していましたので、2年生から3年生にかけて総代表をしたことがとても思い出に残っています。ちょうど大学の授業で模擬授業を行う頃だったので、総代表と大学の授業の両立が少し大変でしたが、どちらも楽しみながら取り組むことができたと思っています。

### ★最後に学生に向けてのメッセージをお願いします。

誰もが口をそろえて言うと思います。が、長期休暇があり、まとまった時間がとれるのは学生までです。なんでもいいので1つだけ、全力で取り組むことがあるととても素敵だと思います。

ます。失敗しても、一生懸命になれた時間を過ごしていると、自分に自信を持つことができ、もつと素敵な女性になれるのではないかな、と思います。

### 感想

お客様と直接関わる営業のお仕事で、様々な場面からやりがいを感じている唐津さんの姿は社会で働く女性として素晴らしい先輩だと思いました。また、大学時代に学生団体の代表という重役を担いながら学業と両立されている姿は学生の鏡です。「一生懸命になれた時間を過ごしていると、自分に自信をもつことができる」という言葉が印象的でした。これから自分という存在を説明する時の武器として他の人には無い面を持つことが大切だと感じます。

最近では、大学卒業後の進路について方向性を決める時期になり、私自身も悩む機会が多くなりました。今回このように教育学科の先輩から貴重なお話を伺うことで、改めて将来について考え、自分と向き合うことができました。

最後に、突然の取材に快く応じて下さった唐津さんに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

【学生委員 3年 林 麗未】



平成 27 年度 教育学科の会

(数字) は回生

- ◆会長 岩木秀夫 (研究室)
- ◆副会長 浦野敬子 (25)、大森桃子 (26) ◆監事 佐藤美知子 (18)、渡辺昌江 (18)
- ◇研究室委員会 瀬尾美紀子 (研究室)、齋藤慶子 (研究室)
- ◇回生委員会 委員長 萩野厚美 (25)

【各部会】

- 総務部 渡邊明美 (27) ○会計部 相沢喜代美 (26) ○会員部 松尾里羽子 (31)
- 庶務部 杉山京子 (27) ○文化部 赤塚国子 (24) ○会報編集部 石井美奈子 (38)

◇学生委員会

- 学部 1 年 片桐芽吹 津田晴奈 林辺くるみ 酒井朱里
- 学部 2 年 油有香理 梶谷 紘 田邊衣純 村越綾乃
- 学部 3 年 田中愛 小石川千裕 塚越綾香 近藤奈穂 飯塚有沙子 小島早織  
永杉世莉亜 片岡希林 大坪春菜 林麗未 小池真由
- 学部 4 年 齋藤果織 大石琴 中原徳子 岡村鈴奈 畑美月 吉田美樹  
中西景子 秋山光 東條葉 中達麻衣子
- 大学院 芦野恵理



懇話会のお知らせ「成瀬仁蔵の歩んだ道」

～日本女子大学誕生と、広岡浅子とのつながり～

「成瀬仁蔵研究」などで大活躍中の、日本女子大学名誉教授片桐芳雄氏が、創立者成瀬仁蔵の歩んだ道を熱く語ります。また、10月からのNHK朝ドラ「あさが来た」のヒロイン広岡浅子と成瀬とのつながりについても豊富な資料を駆使して語ります。

講師 片桐芳雄氏

日時 二〇一五年一月二八日(土)

午後一時三〇分～三時三〇分

会場 日本女子大学目白キャンパス

百年館306・307教室

会費 無料

申し込み 同封のハガキまたは直接会場へ

問合せ先 赤塚 国子(文化部24回生)

☎0466・34・9177

片桐芳雄氏プロフィール

一九四四年熊本生まれ。東京大学大学院教育学研究科修了。教育学博士。愛知教育大学教授、名誉教授、日本女子大学人間社会学部教授を経て、二〇一二年より日本女子大学名誉教授。

専門は教育学で研究分野は近代日本教育史。著書・論文に『自由民権期教育史研究』(東京大学出版会)、『教育学の最前線』(共編著、世織書房)『教育と歴史、あるいはその

認識と記述』(世織書房)『教育から見る日本の社会と歴史』(共編著、八千代出版)『東アジアにおける読み書き能力の歴史』(漢字支配とその纂奪、廃棄、馴致)、『教育学研究』第七〇巻(第四号)などがある。

日本女子大学創立者成瀬仁蔵の研究にも造詣が深く、「成瀬仁蔵とその時代研究会」を立ち上げ、豊富な情報収集をもとに、日々研究に活躍している。

「学縁の集い」へのご協力のお願い

来年度から、教育学科では「プロジェクト実践演習」というアクティブラーニング科目をスタートさせます。この科目では、「学縁の集い」の企画・運営を通して、学生が自主的・主体的に学ぶ重要性を理解するとともに、協同して意見やアイデアを組み合わせることで、新たな発想が生み出されることを経験・体得することを目的としています。これに伴い、これまで教員および中央研究室が主導で行っていた卒業生の方への「学縁の集い」での講演のご依頼・ご連絡を、今後は、学生から卒業生の方々に直接お願いさせていただきます。卒業生の方々には失礼やご迷惑をおかけすることもありますが、何卒、温かいお心で在学生を見守っていただき、ご協力いただけますことをお願い申し上げます。

(教育学科 齋藤慶子・瀬尾美紀子)

日本女子大学教育学科の会  
平成26年度決算書(平成26年5月1日～平成27年4月30日)  
及び平成27年度予算書

## 【収入の部】

項目	平成26年度			平成27年度
	予算	決算	差額	予算(案)
入会金	110,000	109,000	1,000	110,000
会費	2,300,000	2,331,000	-31,000	2,300,000
人間研究 助成金(*1)	180,000	243,000	-63,000	180,000
受取利息	600	435	165	600
その他	0	0	0	0
収入の部合計	2,590,600	2,683,435	-92,835	2,590,600

(\*1)学科刊行物印刷費

## 【支出の部】

項目	平成26年度			平成27年度
	予算	決算	差額	予算(案)
奨励金	0	0	0	30,000
印刷費				
人間研究	360,000	486,000	-126,000	400,000
会報	360,000	419,760	-59,760	400,000
名簿	0	0	0	10,000
名簿データ管理料	150,000	128,795	21,205	150,000
行事運営費				
大会	140,000	99,844	40,156	140,000
懇話会	170,000	79,002	90,998	140,000
ホームカミングデー	80,000	57,367	22,633	80,000
理事会等運営費(会議費)	90,000	103,747	-13,747	90,000
活動費				
研究室委員会	220,000	220,000	0	220,000
学生委員会	50,000	11,880	38,120	50,000
回生委員会	170,000	127,284	42,716	165,000
総務部	50,000	42,541	7,459	50,000
会計部	30,000	31,050	-1,050	30,000
会員部	14,000	10,792	3,208	12,000
庶務部	38,000	35,575	2,425	38,000
文化部	20,000	17,940	2,060	20,000
会報編集部	100,000	64,192	35,808	100,000
研究誌編集部	40,000	40,000	0	40,000
研究室経費	40,000	40,000	0	40,000
送料・通信費	830,000	860,764	-30,764	860,000
事務・消耗品費	25,000	34,654	-9,654	25,000
慶弔費	10,000	0	10,000	10,000
雑費	20,000	9,595	10,405	20,000
ホームページ	100,000	63,390	36,610	70,000
桃柿育英会(震災義援金)	20,000	20,000	0	20,000
支出の部合計	3,127,000	3,004,172	122,828	3,210,000

↓

【平成26年度 収支差額】	-320,737
【前年度からの繰越金】	7,655,417
【次年度への繰越金】	7,334,680

上記のとおり報告いたします。

平成27年5月23日

教育学科の会 会長  
会計

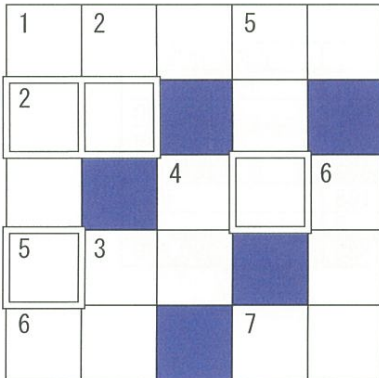
岩木 秀夫  
相沢 喜代美

上記について慎重に監査した結果、いずれも適正かつ妥当なものと認めます。

監事  
監事

佐藤 美知子  
渡辺 昌江

## クロスワードパズル



二重線枠の文字を組み合わせてできるひらがな4文字の言葉は?

### ヒント!

日が沈んで月が出るまでの  
暗い時間。



締め切り  
10月9日(金)  
必着

### <ヨコのカギ>

1. 秋のお楽しみ。ハンティングではありません。愛でるのです。
2. 地球の地表の約7割。縦③も横⑥もここにいます。
4. 肉体的・精神的苦痛を解消させること。これ系のタレントも。
5. 漫画『天才バカボン』では、バカボンの日常着。
6. 積丹での漁は6月の解禁日から8月31日まで。
7. しぼったり借りたり。おばあちゃんの“袋”は頼りになります。

### <タテのカギ>

1. ライオン、虎、ジャガー、熊など。肉食でどう猛。
2. 脊椎動物の多くにあって、食パンにもあります。
3. 上海、香箱、毛。
4. これを立てて水を流すと弁舌が達者なことを表します。
5. 野球のグラウンドの内野以外のフェアゾーン。または部外者。
6. 油彩画のX線撮影で発見されることも。

- ◆解答を同封のハガキに書いて送ってください  
正解者10名に図書カードを贈呈します。  
(正解者多数の場合は抽選)
- ◆前回の正解は<TIME>でした。  
たくさんのご応募ありがとうございました。

### [当選者] (敬称略・数字は回生)

佐久間君子 (15) 渡辺 昌江 (18) 狩野みどり (24) 鶴崎 玲子 (26)  
内田 昌子 (28) 吉川 珠美 (28) 竹市基美与 (30) 上田 直子 (32)  
岩田 君子 (36) 阿藤 郁美 (63)

## 庶務部からのお知らせ

クラス会開催時に、宛名ラベルの必要な回生委員の方は、庶務部・杉山 京子 (0463-96-2272) までご連絡下さい。

「葦」を編集してから皆様のお手元に届くまで一ヶ月以上ありますので、日女祭などの最新情報は大学のホームページでご確認ください。

年号表記につきましては、原稿により、和暦と西暦があり、併用しています。

石井美奈子 (38回生・会報編集部長)

★新編集委員が吹き込んでくれる新たな風に、乞うご期待!です。

★今回初めて「葦」編集に携わらせていただき、色々な方の原稿を通して、学生時代を振り返る機会を得ることが出来ました。戦力外通告を受けないよう少しずつ頑張ってください。

★長期間34回生の委員を務めてくださった近藤さん・大熊さんから引き継ぎました。微力ながらお手伝いさせていただきます。私達4人の名前に懐かしさを感じてくださった方ご連絡ください。

★今回初めて「葦」編集に携わらせていただき、色々な方の原稿を通して、学生時代を振り返る機会を得ることが出来ました。戦力外通告を受けないよう少しずつ頑張ってください。

★30年ぶりの教育学科との関わり。卒論ゼミの先生の近況もわかり、会報も初めて一生懸命読みました。私以外のメンバーの働きぶりに改めて母校を見直しました。

★「葦」新人です。諸先輩方の足を引っ張らぬよう緊張。仕事では入社3年目のまだまだ新人とチームに。教育するどころか教育されている気も。どちらも精進します。あしからず。

★長い間34回生の委員を務めてくださった近藤さん・大熊さんから引き継ぎました。微力ながらお手伝いさせていただきます。私達4人の名前に懐かしさを感じてくださった方ご連絡ください。

★今回初めて「葦」編集に携わらせていただき、色々な方の原稿を通して、学生時代を振り返る機会を得ることが出来ました。戦力外通告を受けないよう少しずつ頑張ってください。

★新しい編集委員4名を迎えての第1号です。今夏は猛暑の中、校正に汗を流しました。近頃の日本は四季がなくなり夏と冬だけの二季になってしまったかのようですが、爽やかな秋が訪れますように。高橋藤枝 (23回生) ★強力なメンバーが加わり、いろいろお話も伺えて気持ちも新たにしました。改めて女子大のつながりについていいなと思いました。

## 編集後記

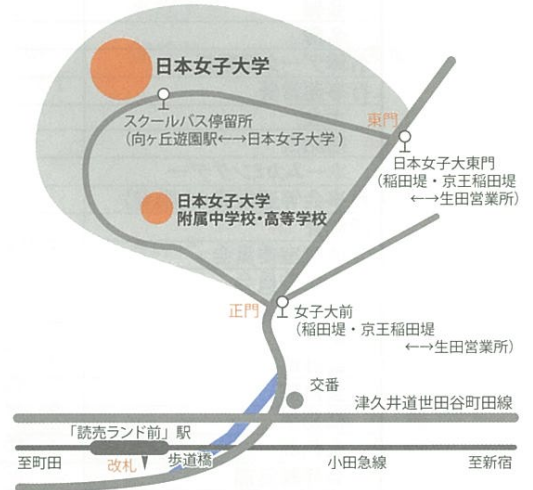
## スクールバス日女祭特別ダイヤ

時	向ヶ丘遊園駅発	日本女子大学発
8	20 40	
9	20 40	00 20
10	00 20 40	00 20
11	00 20 40	00 20
12	00 20 40	00 20 40
13	00 20 40	00 20 40
14	00 20 40	00 20 40
15	00 20 40	00 20 40
16	00 20 40	00 20 40
17	00	00 20 40

※卒業生の方は西生田キャンパス入構・スクールバス乗車に際して、身分確認用として、「葦」送付時の封筒を持参ください。

## 交通のご案内

- ◆小田急線 読売ランド前駅下車 徒歩 15分  
・新宿から急行 25分  
(向ヶ丘遊園乗り換え)  
・新宿から準急 30分
- ◆小田急線 向ヶ丘遊園駅下車  
北口3番停留所よりスクールバス  
(所要時間約 15分・無料)



## ●京王線

『京王稲田堤』駅下車/  
小田急バス(生田営業所行)約12分/  
日本女子大東門または女子大前下車

## ●JR南武線

『稲田堤』駅下車/  
小田急バス(生田営業所行)約12分/  
日本女子大東門または女子大前下車